

1. 3. 9 ZINEをつくろう

1.対象学年 2・3年生

2.担当教諭 中村 翔太郎（美術）

3.テーマのねらい

ZINEは、簡単に言えば個人制作の小冊子である。自らがテーマを設定し、そこに絵・写真・文章をはじめとした様々な表現方法を取り入れ、組み合わせながらつくり出していく。

本テーマ研究では作品制作はもちろんだが、その過程において手を動かすことを通して見方・考え方を深めていくことを期待した。つまり、設計図通りにつくるという活動で終わるのではなく、手を動かしながら試行錯誤すること、そしてその中でモノや自らと対話し、イメージを常に更新しながら表す活動を目指した。「良い作品（モノ）ができて満足」というだけにとどまるのではなく、「つくる中で案外いろいろ考えたなあ」という行為（コト）面でのふりかえりに繋がることができれば良いと考える。

4.学習活動の計画

	主な学習内容
1	オリエンテーション（ZINEとは何だろう）
2	テーマの決定／全体構想を練る
3	ラフの制作／発表
4	制作（構成の練り直し）
5	制作（紙などの材料選び）
	（予備日）
6	制作
7	制作
8	制作
9	制作
10	鑑賞
	テーマ研究発表会準備
	テーマ研究発表会
	テーマ研究まとめ・自己評価

5.学習の概要

活動は大まかに、①オリエンテーション、②テーマと内容の構想、③ラフ制作、④本制作、⑤鑑賞、という流れでおこなった。だが、各自が試したり考えたりする時間を重視しなかったため、それぞれに合わせた進め方を優先した。そのため、活動の半分以上を構想に費やした者もいれば、何度もつくりなおした者もいる。普段の授業であればなかなか実現の難しい進め方であった。

オリエンテーションのみは一斉



でおこない、50点程度の実物を見比べながらZINEとはどのようなものなのかを紹介した。絵画や写真などの作品をポートフォリオのようにまとめたもの、地域や店舗の紹介に特化した雑誌のようなもの、日常の出来事を綴った日記のようなものなど、例示したものだけでも内容は幅広い。また、冊子のサイズや形、綴じ方、文章や絵の構成にも様々な工夫がされており、それらの面白さやこだわりにも生徒は注目していたようである。

テーマを決めていく段階以降は、想定していたとおり個々で進み方に差が生じた。自身の興味あることや好きなものがはっきりとある生徒は早々とテーマを決定し、いろいろと試しながら内容を考える活動に入ることができた。しかし一方で、なかなかテーマを見つけられない者もいた。そのような生徒に対しては、表現方法を選び、一度形にしてみしてから考えるよう助言するなどした。例えば、写真を撮ることが面白そうだがテーマは特にないという者には、ひとまず学校内で写真を撮ってみることを提案した。撮影してきたものを並べ、振り返ったり整理したりする中で、自分自身の視点をメタ的に見出しテーマにする生徒もいた。どちらにせよ、実際に手を動かしていく段階で、改めて内容を練り直したり、より良いテーマを発見したりする姿が多く見られた。

つくり終えたZINEは、造形としても内容としてもそれぞれのこだわりを匂わせるものとなり、生徒たち自身も表した作品に満足気な様子であった。それでも「こうすればもっと良くなったかもしれない」といったことを口にする者は多く、活動へのふりかえりも半ば自然におこなわれていたように感じる。



【写真左上】
たくさん写真を色ごとに分類し、箱におさめた作品。

【写真右上】
取り上げた内容もそれぞれ異なる。



【写真左下】
あらゆる種類の牛乳を飲み比べ、コメントをつけた作品。

【写真右下】
雑誌の切り抜きや修学旅行の写真でコラージュを制作し、一冊にまとめた作品。

6. 今後の課題

本テーマ研究は個人制作としたため、全体としてみると単調な授業展開が多かったことが否めない。制作過程では友達同士での見せ合いや意見の言い合いはあったものの、2年生と3年生の間でやりとりする場面は少なかったように感じる。例えば、お互いがコメントしあったり協力したりする機会を意識的に取り入れることで、活動そのものがより広がる可能性も考えられる。